

令和6年度
3歳未満児保育サービス
向上支援研修会報告書

(保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】分野)

岡 山 県

(協力：日本保育協会岡山県支部)

令和6年度3歳未満児保育サービス向上支援研修会
(保育士等キャリアアップ研修会「乳児保育」分野)

【研修期間】 令和6年10月28日(月)、29日(火)、11月6日(水)、12日(火)

【研修会場】 きらめきプラザ、保育所実習園

【研修目的】

乳児保育に関する理解を深め、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた保育を行う力を養い、他の保育士等に乳児保育に関する適切な助言及び指導ができるよう、実践的な能力を身に付けるとともに、乳児保育の実施に必要な知識及び技術に関する情報交換の機会を提供する。

【主催】 岡山県(協力：社会福祉法人日本保育協会岡山県支部)

【対象】

県内の認可保育所、認定こども園、小規模保育事業所、事業所内認定保育事業所に勤務している保育士・保育教諭(園長、主任保育士を除く)、看護師、調理員等で、経験年数概ね3年～15年程度の者

【参加者】 37名

【研修日程】 別紙のとおり

.....

【本研修の流れ】

事前課題(問1～3)により、受講者自身が日頃の保育の振り返りをした上で研修に参加。初日のグループワーク、4日目のグループワーク、まとめの時間を使い、本研修で学んだこと、今後取り組みたいこと等について、受講者自身が記録(問4、5)を行った。

グループワークは、いろいろな市町村の参加者と情報交換、意見共有できるよう、3～4名1組で実施した。

(参加者のうち、8名分を抜粋し掲載。)

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会 研修プログラム

(本研修は、保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】分野を兼ねています。)

【対象者】

★経験年数概ね3年以上15年未満の方…科目①～⑧(全科目)受講

	9時 30分	10時		12時	13時	15時	16時	研修会場
10/28 (月)	開 講 式	科目①【グループ学習:2時間】	(例)各園での状況や特色を伝え合い、乳児保育の課題を明確にするとともに、乳児保育の実践例の討議を通して、乳児保育に関する実践力を身に付ける。	昼 食	科目②【講義:3時間】			きらめきプラザ 4階 401会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
		岡山県立大学 非常勤講師 宮川 洋子 氏 (こじかこども園 園長)			乳児保育における 安全な環境と保育者の関わり			
10/29 (火)	科目③【保育所実習:2.5時間】			昼 食	科目④【グループ学習:2時間】			実習園① 【公立】岡山市立鹿田認定こども園 岡山市北区大供表町16-10 実習園② 【私立】つきのさとこども園 岡山市東区金岡西町578-5 実習園③ 【公立】倉敷市茶屋町保育園 倉敷市茶屋町165-2 実習園④ 【私立】幼保連携型認定こども園 遍照こども園 倉敷市西阿知町465-1
11/6 (水)	科目⑤【講義:2.5時間】			昼 食	科目⑥【講義:3時間】			きらめきプラザ 7階 706会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
	乳児保育の意義と乳児の発達を支える保育者の関わり				乳児の栄養管理			
			山陽学園短期大学 名誉教授 村中 由紀子 氏	岡山県立大学保健福祉学部栄養学科 教授 久保田 恵 氏				
11/12 (火)	科目⑦【講義:2.5時間】			昼 食	科目⑧【グループ学習とまとめ:3時間】		閉 講 式	きらめきプラザ 7階 706会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
	乳児の発達に応じた保育内容 乳児保育の指導計画、記録及び評価				グループ学習	まとめ		
			岡山県立大学 非常勤講師 宮川 洋子 氏 (こじかこども園 園長)	岡山県立大学 非常勤講師 宮川 洋子 氏 (こじかこども園 園長)				
	9時 30分	10時		12時	13時	15時	16時	研修会場

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

〔環境〕

年程前に園舎を建て替えたため、新しい作りで設備も整えられている。園庭は、3木と3上とに分かれており、3木の園庭は砂場が小さく、固定遊具が少しいため、もう少し改善されたいと感じている。園舎も3木と3上とで離れているため、交流は少ないように感じる。園児数は、計90名。（3木：0歳児3名、1歳児15名、2歳児18名）自然豊かで、四季折々の変化を感じ、落ち着いた環境の中で生活できる。

〔保育内容〕

- 9:00 排せ
 9:10 朝おやつ
 9:20 好きな遊び（ブロック・ままごと・マグフォーマーなど）
 9:50 朝の集い・石前呼び
 10:00 戸外遊び（砂場・追いかけ、こ・滑り台など）
 10:40 排せ・手洗い
 11:00 給食

◎ はるべく子どもたちが落ち着いて過ごせるように、好きな遊びの時間は、様々な遊びのコーナーを作り、興味に合わせて遊べるようにしている。また、戸外では、しっかり体を動かして遊んだり、季節の自然物に触れ合ったりできるような機会を設けている。

〔家庭との連携〕

- ・ 送迎時や連絡帳などで園での様子を伝えたり、保護者の思いや心配事などを受け止めたりし、寄り添っていくようにしている。
- ・ 保育参観や運動会など、クラスだけでなく日頃の様子も見てもらう機会を設けている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

1歳児の担任をしている。最近、言葉数が増え、遊びや生活の中で、子ども同士でやりとりをする場面がよく見られるようになってきた。しかし、その反面、子ども同士のトラブルも多くなってきている。思いが上手に相手に伝わらず、手が出たり、奇声をあげたりすることがある。保育者が話をすると、どこまで話の内容を理解しているのか判断するのが難しく、同じことを何度も繰り返すことがある。子ども同士のトラブルも子どもの成長過程で大切なことだが、子どもに優しくいってほしいことをきちんと伝え、子どもの心を育てていくには、どう関わっていけばよいか。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

4年目で初めての3才（1歳児）クラスを担当しているが、
3才クラスとの子どもとのやりとりのギャップを感じることがある。
子どもに指示する時や、子ども同士トラブルがあった時、保育者が話をしてもなかなか意図したことが伝わらないことが多い。
子どもの思いに寄り添いつつ、保育者が伝えたいことを子どもに分かりやすく伝え、成長につなげるようにしていくには、どう関わっていけばよいか。

4. グループワークを終えて (具体的にご記入ください)

グループテーマ: _____

【気付いた点・学んだ点】

目
話し合い

- ・ そのほかの園に環境や保育士の配置などがちがっている。
- ・ 保育者同士で連携がとれるようにホワイトボードでその日の活動を共有している。
- ・ 誕生会で異年齢交流をしている。
- ・ アレルギー児の食膳は決まらず、保育士が作る。
- ・ トイレトレーニングに苦戦している。
- ・ 兄、姉がいる子どもは言葉が発達している (悪い言葉も言うようになる)
- ・ 言葉がでにくい子どもの支援について
保育士は「何」ではなく、保育者・保健師と3者チームとする。
- ・ 園による様式の書き方が様々だった → 年齢やねらいに合わせて
期間で指導計画を立てていることが大切。(毎月立てても、コピーするだけでは
意味がない)

【今後自園で取り組みたいこと】

1日

- ・ 保育者間でその日の活動をホワイトボードなどで共有する。
→ ホール、園庭を使う時間、一人ひとりに活動するほどを確認できる
- ・ 発達が進んでいる子どもの療育ほどへの進め方
行事や保育参観に子どもの様子を見てもらう。(保健師さんにも
相談し、様子を見てもらう。保育士、保育者、保健師と3者チーム)
- ・ 誤食欠がある、実際の対応方法をし、かり全体共有しておく
- ・ 保育者対応は肯定的を意識して関わる
- ・ 年齢に関係なく廃材遊びはできるので、発達段階や年齢に
合、その遊びを取り入れていきたい

【その他 (グループワークの感想等自由にご記入ください)】

グループワークを通して、気軽に日頃の保育の悩みを相談したり、
アドバイスをもらったことが嬉しく、貴重な機会になった。
実際には話していると、他園にも同じような問題があり、和気あいあい
はいんていとおぼした。上記のように気付いたことや学んだことを
活かして、今後園にリソースを取り組んでいきたい。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

今回の研修で、保育に関する課題や悩みは、各園でそれぞれながら、「共」、「講義」やグループワーク、「保育所実習」などを通してしっかりと共有し、皆で解決策を考えることができたと思う。最も心に響いたことは、「0歳からの積み重ねが大切」ということだ。

0歳児は、自分でできることは少ないが、「様々」は「軽易」や「遊び」を通して、吸収し、学んでいく。そのため、「保育者」、「保母」、「地域の人」など周囲の連携が大切と学んだ。そして、「できる」ように「は、」と「こと」としっかりと認め、「自信」、「積極性」、「自己肯定感」、「有能感」、「自信」などをつけていきたい。また、「乳児の安全」は「環境」、「栄養管理」、「発達」を支える「保育者の関わり」なども学び、「子ども一人一人」と「主体的」に関わりながら、「安全・健康に保育」していくことが大切と学んだ。

【今後自園で取組みたいこと】

まず「3歳未満児」は、「保育者の連携」が大切というのを学んだので、「講義」にもあったように、「保育の様子」をビデオに撮るというのはやってみたいと思う。また、「ほか」は「自分」の「保育」を客観的に見ることはないので、ビデオにやってみると、「改善」的や「その」の「目」の「子ども」の「反応」などを「見返」しやうかと思う。また、「安全」面に関して、「アレルギー」や「子ども」の「誤食」が増えているので、「エコペンの使い方」や「ハイリック」や「背骨叩打」などのやり方をしっかりと共有し、「いつ」と「どこ」で「起き」ても、「保育者」が「すぐ」に「対応」できるようにしておきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

私は保育士4年目。今年度初めて1歳児を担当し、この研修に参加させてもらったことが、改めて「乳児保育」の「重要性」を感じることでできた。子どもの「学び」や「成長」をしっかりと受け止めながら、「成長」できるように「見守」ていきたい。また、その「学び」を「次」に「つ」けていけるように「園」全体で共有しながら、「育」ていきたい。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。
- * 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

＜環境・保育内容＞

- ・園庭は3歳以上児用の総合遊具があるが、乳児園庭も広く、3歳未満児が安心して遊ぶ環境を整えているので、保育室前のテラスに簡易的なスプリングマットを橋状に設置しそこで遊んでいる。保育室は遊びの量が多いと食事のスペースと2つに分けているが、おど(12cm)を移動できるので、室内でも保育遊具を設置し、ダイニングテーブルも遊具もよくしている。

＜関わり＞

- ・生活面ではローテーションで担当制で保育をしているが、遊びは一斉保育なのでどの職員も子どもが安心して過ごることができる。

＜家庭との連携＞

- ・参観日、運動会など、3歳未満児発表会をそれぞれ年1回行い、子どもの様子を見てもらい成長の喜びを共有している。懇談も年2回行い(4月・2月)、子どもの成長の方向性や園や家庭の様子を話し合っている。

＜他職種との協働＞

- ・給食先生と一緒に給食を食べてもらったり、様子を見に来る日を年1回もっている。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- 子どもが安全な環境の中で、子どもが夢中になりわくわくできる保育の進め方、環境作り、遊びの発展のさせ方を学びたい。
- 3歳未満児は言葉で自分の欲求などを伝えられないので、午が出たり、かみ切っても多くあちかちか、子どもも子ども同士のトラブルを減らせるような保育の仕方の工夫や保育士の視点、(おびと矢口) たい。
- 1つの遊びにすぐ飽きてしまうので、3歳未満児の好きな、ふいふ、遊び、わん、歌、おび、(おびと遊びを矢口)、3つ出しを増やしたい。
- 大学で保育士免許を取得し、今に至るので、1保育の70の先生の講義や実習、グループワークを通して、1保育士としての知識を学びたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

- (10月) 市で書架員の決まり書式があり、それを全園で共有して使うのが、タブレット内に全書架員が入っている。書架員の所在がはっきりし、持ち帰りもできないので安全で良いと感じた。
- ・(0,1)世(1,2)の混合保育をしている園では、クラス内の成長の差も大きく設定保育も遊び、玩具も考えが深い。難しい事だけでなく、高齢児がしているのを見て、低年齢児が真似してやってもらうとやる気もあり、よい部分もある事。
- ・ごさまマットで遊びのコーナーを設け、色んな遊びを用意し子どもが主体的に女子が遊びながら主体的にしているのほっとも良いと感じた。
- (20月) 家庭との連携のグループワークを通して、色んな園でこんな事例があることがわかり、普段の保護者対応でも見直したい機会になった。特に自分セクラスのみで共有していることが多かった中で、園全体で保護者対応に力をつけている園があることに驚いた。でも職員全員で共有することで、誰が対応しても同じ文脈が伝わるのも良いと思った。特に保護者への伝え方で、子どもを主体にした伝え方(子どもがワクワクしていること)は保護者の心にも伝わりやすいと感じた。こちらの要望も保護者に対してくれたことは感謝になり、子どもが良い方向へ向かっていることを伝えやすいことで、保護者と良い関係が築けていくと感じた。

【今後自園で取り組みたいこと】

- (10月) 毎朝各クラスのリーダー(サリダー)が園の玄関に集まり朝のミーティングをしている園があった。職員全員で情報の共有ができるので、忙しい時間ではあるが、可能な限り自園でもやってみようと思った。
- ・0歳から1歳までは一人一人のペースに合わせて保育している園があり、朝の会を全員を集めて絵本を讀んだりもしかいたの事。絵本を見た子は見ると興味を持ってワクワクしている子は他の玩具で遊んでいる。おどかしいので、女子が遊びをし、無理に朝の会をやらせてもよいのではなかろうかと思った。
- ・自園ではイラストの作り方をしているので、少しずつ変えていきたい。
- ・3歳でも野菜のコーナーで野菜を育てている園もあり、食への興味をもてる取り組みはぜひやってみようと思った。
- (20月) クラスの担任1人個人でのみ保護者対応ができてはなくて、当分の先生に申し送りがあるので、職員間で共有していただけたらいいなと思った。
- ・保護者と話し内容等(=?)、話し場所、日時も考えておくことは大切だと感じた。今後自分たちでいこう。
- ・否定語で話さなければ、肯定的に子どもを保護者に伝えられるようにしたい。

【その他(グループワークの感想等自由にご記入ください)】

- (10月) 園によって年齢の仕方、環境は大きく違うが、困っていること、悩んでいることは、どの園の先生も同じだと思った。部屋を走り回る子やかみ切りの子の対応、親への伝え方などで、日々悩んでいるが、グループワークで色んな意見を聞くことができて、日々の保育でも実践している。そして、自分たちのやり方を見つけていけたらいいなと思った。
- (20月) おみくじの子どもは文芸的ロールプレイをしたが、自分でも気が付いたら肯定的な言葉をつかって話していたので、客観的に見てもらうことで自分よりよい所も気づくことができた。おみくじはいいですねと、その後、あやめたこと、よほして2つにこをみかめつ、次はいいことを見つけていけたらいい。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- 他園の先生とのグループワークを通して、園において保育の仕方、書類の様式、書き方など、まちまちで違い、色んなやり方があるんだと、視野を広げる事ができた。
- 乳児の感染症、けが、事故については普段あまり学ぶ機会がないので、知識もたか実践もしていないが、実際にエポソンの見本を使って仕方を学んだ。人形を使って窒息時の対応の仕方を実践することができ、自信になった。もしもの時に対応できるようくり返し練習できたらと思う。
- 箸を使用する際の手の重さの目せりを知ることができ、今悩んでいたことなので解決できている遊びの中で、（かつ）手指を動かす機会を取り入れてくれた。
- 保育所実習では、実習園の先生達の保育を学ばせてもらったり、手づくり玩具、環境設定などを見せてもらったりして、自園でも取り入れていこうと思うことがたくさんあった。また自分の保育と見直してもいい機会になった。
- 保護者や子どもに対して肯定的な話し方を学ぶロールプレイングでは、客観的に見ることで、こぼさず、褒めたいところ、今の言い方は嫌いなところ、など気づきがあった。

【今後自園で取組みたいこと】

- 乳児、書類では、簡素化したり、IT化している園もたくさんあり、自園でも書類の見直しをし、負担を減らすことで子どもの保育のために使う時間を増やせたらいいと思う。
- （例：月案 → 期案に 個別指導計画 月1枚 → 2,3,4月に1枚）
- エポソや窒息時の対応研修を園で別時間をとりせたらいいと思う。
- 一斉保育なので、「対して子どもと関わり遊ぶ時間」がほとんどないので、設定保育で保育士と対して関わる時間を設けたらと思う。
- 0,1歳児は小さな物を口に入れるので、廢材遊びはあつたことではあるが、廢材は少し手を加えて危ないものをし、取り入れてみた。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- 独学で保育士免許を取ったので、今回のような講義や保育所実習も初めてだったのでとてもいい経験を与えてくれた。毎日の保育、書類に追われ、本来の保育士としての自分を見失いかけて、「つらいなあ、しんどいなあ…」と思うことが多かったのが、研修を受けて、保育士のやりがい、子どもが育つことにできることの喜びや、思い出しることができた。おっしゃる保育士として未熟ですが、この度は研修にぜひ参加させてほしい。バリエーションとしていけたらいいと思う。ありがとうございました。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

<環境>

- ・1・2歳児の保育室には屋根付きの人工芝のテラスがある。広くはないが天候に関わらず工夫次第で子どもの遊びや行動範囲を広げ、好きな遊びを存分に楽しめる環境を作ることができる。
- ・3歳未満児共有の絵本コーナーを廊下につくり、好きな絵本を選び見たり読んでもらったりして絵本に親しみがもてる環境をつくっている。
- ・3歳未満児の園庭があり、遊具・築山・砂場・タイヤ・芝などの環境の中で、年齢に合った安全な遊びを安心して楽しむことができる。

<保育内容・関わり>

- ・「一人一人を大切に保育」の1つの方法として、ゆるやかな担当制を取り入れ、今年度は3歳未満児クラスで特に「食事」について、丁寧に行っていこうと取り組んでいるところである。

◎1歳児

- 【食事】1対2で進め、保育者が子どもにとって必要な手助けが丁寧に行える。「食事が楽しい」「おいしい時間」となるよう心掛けている。
- 【排泄】スキニップをはかりながら、それぞれのタイミングでトイレに行っている。1対1の貴重な大切な時間と捉えている。
- 【睡眠】一人一人の生活リズムを把握し、同じ場所で特定の保育者が子どもに合った入眠の仕方に寄り添っていくことで、安心して入眠できるようにしている。

<家庭との連携>

- ・保護者と園や家庭での様子を送迎時や連絡帳等で共有したり、子どもの成長や出来事を伝えたりしていくことで、「子育ての楽しさ」を感じられるよう保護者との関わりを丁寧に行い、信頼関係を構築し深めていけるように日々意識している。
- ・クラスだよりや園だより等で園での生活・遊びの写真を掲載し、エピソードも加えながら子どもの成長を感じていただくと共に、園や保育への関心を深めてもらえるよう内容を考えている。
- ・参観日や講演会など年に3回あり、日頃の様子を見ていただく機会を設けている。親子での触れ合いや、好きな遊びを親子で楽しむ参観日、講演会がある参観日も設けている。また、日頃園でどのように過ごしているのか窓にのぞき穴がある壁面を貼り、子ども達の様子を見ていただけるような工夫も行っている。

<他職種との協働>

- ・栄養士が各クラスの給食の様子を見たり、発達段階に合った食具の提供ができるよう相談をしたり、食材の大きさや硬さ、味など子どもの食べ方など見ていただくと共に、月に1回の給食運営会議を設け、栄養士・調理員と「食育」について考え進めている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

<環境>

- ・規定数に合った保育室ではあるが、保育室が狭く形も使いにくい。テラスや廊下も活用しながら、好きな遊びを選び楽しめる環境になるよう工夫している。
- ・年齢に合った玩具もあるが、多くは手作り玩具が占め、長持ちはせず壊れたり新たに作り直したりすることが多い。

<保育内容>

- ・ゆるやかな担当制、一人一人を大切にした保育への理解。
「一人一人を大切にした保育」をしていくための方法とは具体的にどのようなことなのか、保育者それぞれが考え理解し実践していけるよう、保育の語り合いや研修を重ねていく必要があると感じている。保育観や思いに違いはあるが、同じ方向を向いて大切にしていきたいポイントを押さえ保育を進めていくことができるよう、0・1・2歳児の縦の繋がりを作っていきたい。

<関わり・家庭との連携>

- ・体調が優れない（下痢・微熱が続くなど）ままの登園が続いたり、就寝時間が23時などと遅かったり、朝食なしでの登園という家庭・子どもが増えている。また、クラスだよりや個別で保護者と話して生活リズムの大切さを発信してきているが、伝わりにくく家庭支援を要する子どもが多い。
- ・年々、個別の関わりが必要な子どもが増えてきているように感じる。子どもの人数に対する保育者の人数だと、一人一人に合った保育を丁寧に行うことができにくくなる現状もある（眠い、空腹、生活リズムが崩れやすく苛立ち機嫌が優れないなどの背景も有り）。本園では、プラス1名保育者を配置可能な日は保育に入れる動静を組んでくださっている。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

<環境>

- ・低月齢児と高月齢児とでは、興味もできることも異なるため、それぞれが楽しめる環境を構成し保育者も丁寧に関わりながら保育を進めているが、他園で工夫している環境や玩具などあれば知りたい。私の考える保育の視点とはまた違う環境を構成するにあたっての視点や保育の視点を見つきたい。

<保育内容>

- ・日々の保育の中で個々に合わせた生活の流れをどのように進めているのか、職員間の連携で大切にしていることや、職員間でどのように子どもへの理解を深めているのか学び参考にしたい（例：共有の仕方、園内研修、クラスや3歳未満児研修の内容など）。
- ・子どもの内面に寄り添い、安心して自己発揮し快適に生活できるようにと考えている。汲み取る力を研修を通して磨き、考え方が偏らないよう柔軟な対応ができるよう考え方・視点を知り自身の視野を広げたい。

<家庭との連携>

- ・家庭支援に難しさを感じている。保護者の思いや考え、悩みなどをまずは受け止め、内容に合わせて提案したり、園で実践していることなど具体的に伝えていたりしている。子どもへの興味・関心を高めるため、子育ての楽しさ、関わり方、愛着形成について便りや口頭等で発信しているが、他園での発信の工夫や保護者対応の仕方のポイントを学びたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

・ 難しさをやり出すたび、園をわけてはあか、保育の中での課題も現在悩んでいることなどは似ていることもあり、各国の工夫や今のようになっているのか、その先生の考えなどを聞いたりでき、明日から考えや見方を変え、保育にしようと思ふ。

子どもの「生活」「遊び」の充実を図り、学びを保障していくための保育者の役割とは何か改めて学ばせてもらいました。保育に正解はないということ、保育のやり方も各国様々だが、「同じ方向に向いていけば良い」ということ、子どもにも保護者にも手厚い保育がよいということも大切だということに改めて感じました。

【今後自園で取り組みたいこと】

・ 現在の3歳保育についての進め方について、様々やり方があろうということも伝えたいから、園全体で話し合う時間を設け、「何とスロウにしていこう」という点をおさえ、同じ方向に向いて（保育できる）にしていく。

・ 今回の研修で使用した資料を活用してもらいながら、園内研でもグループワークを取り入れ、子ども（0、1、2歳児）の特徴をおさえ、理解を深めたいようにしていきたい。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

他園の先生方と話をできる機会があり、様々な情報や園での取り組み、悩んでいること、頑張っていることなど聞いたりでき、参考にしたいことや今のところ、外遊びや同じ方向に、大変さについても共感できたこと、明日から頑張ろう、「ここを工夫しよう！」と思うことができたのが大きな収穫だったと思う。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

4日間 とても濃い深い内容はわかり、1日3回「アウトルック！」と（？）も
もにこんめり。事例やレポートもわかり、具体的にわかりやすく、グループワーク
は、様々な意見、見方があり、自分にはアウトルックにも発見も発見も。

【今後自園で取組みたいこと】

子どもにとっての遊びは、子どもが印ければ「幼いほど重要」という課が
じいのはりま。

自園でもカメラで、私達保育者の動きを録音研究し、より良い保育が（？）
子どもへの理解を深めていきたいと思います。

3歳保育の進め方について、まだアウトルックは原口大きいので、3歳研修も行
具体的な保育の内容について話し合いたいと思います。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

この4日間でたくさんのことを学ばせていただきました。

具体的な内容はわかり、すぐに実践できることも多かったです。実践して
どうだったか PDCAを（？）意識して、楽しい保育を子ども理解を（？）
うらやま努力していきたいです。

ありがとうございました。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

◎環境・保育内容（生活や遊び）

- ・0・1歳児混合保育をしている。
- ・3未のテラス側に中庭があり、滑り台や砂場で遊ぶことができる。
- ・小規模園のため、園庭に出て3上との異年齢児交流をしながら一緒に遊ばせてもらうこともある。
- ・雨天時はホールで、ソフト積み木やマットなどを出して異年齢児と一緒に遊びを楽しんでいる。
- ・子どもの発達や興味に合わせて手作り玩具を作って遊びに取り入れている。
- ・衛生面から、食事の口拭きはウエットティッシュを使用し、紙パンツは園で処分している。
- ・玩具は滅菌BOXに入れたり消毒したりしながら衛生面を保つようにしている。

◎関わり（保育者と子ども／子ども同士）

- ・噛みつきや手が出やすい子どもについては園全体で情報を共有し、共通理解をしている。
- ・一人ひとりの子どもとしっかり関わりが持てるように、触れ合い遊びをしたり応答的に関わったりするようにしている。

◎家庭との連携

- ・送迎時に直接話したり、連絡帳でのやりとりをしたりするなどして、園や家庭での様子を伝え合っている。
- ・年に2回（夏と冬）に個人懇談があり、子どもの様子を伝え合ったり、保護者の心配事について話したりする機会を設けている。
- ・参観日を通して日頃の様子を見てもらう機会を作っている。

◎他職種との協働

- ・アレルギーのある子どもや離乳食の進め方など、栄養士や調理員、家庭とやりとりをして連携を図っている。
- ・施設支援や巡回指導など外部から専門の職種の方を招き、発達面で気になるところなどを見ていただいている。

◎計画や記録

- ・月案・週案（2歳児以上）、保育日誌（0.1歳児）、個人記録（0歳児は2ヶ月ごと、1,2歳児は3ヶ月ごと）、児童票にタブレットで記入や記録を行っている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- ・0.1歳児混合保育を行っているが、0歳児は午前睡がまだ必要な子どももいる中で、1歳児の安全で充実した遊びの環境の確保をする難しさ、給食の時には0.1歳児テーブルを分けて食べているが、1歳児は眠くなってしまふ子どもが多く、0歳児は食事の介助が必要で、バタバタしてしまふ。
- ・室内・戸外どちらも遊びがマンネリ化しがちになってしまい、同じような遊びの繰り返しになってしまふことに悩んでいる。
- ・家庭で離乳食があまり進めておらず大人と同じものを食べているが、濃い味に慣れてしまっている一方で、そしゃくや嚥下機能が未熟な子どもについて園でも離乳食が進めにくく困っている。
- ・トイレトレーニングの進め方について。
- ・嘔みつきや手が出る子どもへの関わり方が難しいと感じる。そういった様子が見られる子どもの保護者に対してどのように伝えたらよいか悩む。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- ・混合保育をする中での保育のポイントや環境の設定などについて、より具体的に詳しく学びたい。
- ・子どもと一緒に楽しめる遊びや、普段行っている遊びの工夫や環境設定などについて学びたい。（コーナー遊びなど）
- ・子どもが主体的に遊べる環境づくりのポイントや保育の進め方について学びたい。
- ・手作り玩具を作ったりしているが、他園ではどのような手作り玩具を作っているのか。
- ・基本的な離乳食の進め方について学びたい。
- ・発達面で少し気になるところがある子どもへの関わり方。
- ・書類作成で気を付けていることや他者から見てわかりやすく書くコツを学びたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

- 科目・環境や園での取り組みなどは異なるが、あそびの設定や、保育室の環境、保護者対応など悩みは同じであった。
- ①
- 書類の形式は園により異なる部分が多かったが、工夫している点を話し合ったり、情報を共有することで勉強になった。
 - 連絡帳アプリを導入している園があり、保育者の負担軽減になっていることを知った。

科目

- ⑧
- 家庭との連携を取るための留意点として、日頃の様子（どのようなこと、頑張っていること、困っていることなど）を伝える中で、伝え方の工夫は特に大切な部分だと再認識した。伝え方としては子ども主体で伝えることにより保護者も困り感に気づきやすいことを学んだ。また、保護者の働きかけにより子どもの様子が変わったことなど、保護者の気持ちも大切にしておく。

【今後自園で取り組みたいこと】

- 科目・保育者によって保育観は様々だが、今回の研修で情報を集めてもらった点などは、積極的に自園でも情報を共有し、より良い保育へとつなげていきたい。
- ①

- 科目・家庭との連携を取る時に、担任間だけの共通理解だけではなく、園全体で情報共有し、伝え方を統一することで保護者もとまどわないという話を聞き、自園でもグループワークを大切にしていきたい。また、伝える日時や場所にも留意し、個人情報取り扱いにも気をつけていきたいと再確認した。
- ②

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- 他園での保育の工夫を聞くことができて、勉強になった。
- 書類に関しても、園ごとに書類の書き方や個人指導案の書く頻度にも大きく違いがあることを知り、良いものは参考にできたらと思う。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・小児の窒息時の救急処置では、実際に人形を使って処置の仕方を実践したり、練習用のエビポンも使って声出す練習をしたこと、今までは不安に感じていた処置も、今後は、いざ必要となったら時に自ら子どもを助けることができるように行きかかると思う。
- ・実習園での公開保育では、保育者もフワフワするような環境作りや一人ひとりの子どもとの丁寧な関わり方の工夫が素晴らしく、刺激的で勉強になった。
- ・乳児保育の特徴の中で、「遊びの中で発達する（遊びから発達につながる）」という内容では、目の前で遊んでいる子どもの発達段階として、「事物」なのか、「表象」なのかを見分けることが大切だと学んだ。

【今後自園で取組みたいこと】

- ・4日間の研修で学んだことを、園の保育士にも共有し、よりよい保育へとつなげていきたい。
- ・高齢乳児の進め方について、園にいる経験者に寄り添い、一緒に考えながら進めていきたい。
- ・保育をする中で、事物と表象のどちらの段階なのかをしっかりと見分け、その子に合わせた環境構成や関わりをしていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

料相^①で、子どもは自分で環境から学ぶため、信じてあげることに。
 そして、先生は子どもの芽を見守り育てることが役割と役割わり。
 日々の保育環境を見つめ直し、子どもの主体性を大切にしながら成長を見守り、信じてあげたいなと思ってきました。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

《環境》《保育内容》

・0・1歳児が同じ保育室で過ごしており、保育内容によっては1歳児の低月齢児が0歳児と一緒に活動をするなど、その時の子どもの発達に応じて対応できるようにしている。また、職員も0・1歳の担任同士で連携を取って一緒に保育をすることで、スムーズに保育を進めることができるようにしている。(0・1歳)

・仕切りのあるスペースが別があり、アレルギー児が食事をする際に使用したり、不安定な子どもが落ち着いて遊ぶことができる空間になるようにしたりして使用している。

(0・1歳)

・園庭に3歳専用の遊ぶスペースがあるため、そこで危険のないように遊ぶことができる。(0・1歳)

・自然豊かで、虫やカエルなどの生き物も多い。戸外で遊んでいる時に3歳上の子どもと一緒に関わって遊ぶことも多いため、3歳上の子どもが捕まえた生き物を見に行ったり、3歳上が育てている野菜と一緒に水をあげたりして、自然にも触れることができる環境にしている。(0～2歳)

・普段の何気ない遊びの中で、子どもたちが楽しんでいる様子を見て、必要なものがあれば手作りで用意するようにしている。(ジュース、スマホ、トンネル など) 指先の発達を促すため、ボタン付けやひも通し、洗濯ばさみを使った手作りおもちゃも用意している。(2歳)

・アレルギー児の食事は提供する場所や返却する場所を細かく決めたり、提供時間を5分でも他児のものとはずらしたりして、誤食がないようにしている。(0～2歳)

《家庭との連携》

・コドモン（アプリ）を導入し、それを利用しながら個々の生活の様子（排泄、食事など）を丁寧に伝えるようにしている。写真付きで生活の様子を月に3回以上は送るようにしている。いつでも送ることができ、保護者も各々のタイミングで見ることができるため、連携が取りやすい。(0～2歳)

《他職種との協働》

・栄養士と話し合い、園で採れたきゅうりでクッキングを計画して行うなど、食育に関する取り組みも行っている。(2歳)

・栄養士がクラスの食事の様子をよく見に来てくださり、また、月に1回“もぐもぐ会”として調理員の先生も一緒に給食を食べる時間もあるため、アレルギー児に関してや離乳食の進め方など、すぐに栄養士と相談ができる環境にある。

・必要であれば健診前に園から保健師に連絡を取り、対象の子どもの情報を共有するようにしている。また、必要があれば保健師が園の様子を見にくる時間を設け、対象の子ども様子を十分に知ることができるようにしている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

《環境》《保育内容》

・夏の遊び方について

夏（6～8月）水に触れて遊ぶことができるように様々な水遊びを計画していたが、猛暑により暑さ指数が基準を超える日が多く、水遊びの経験があまりできなかった。室内ばかりの活動になり、子どもたちも落ち着いて過ごすことが難しい日も多く、園内を散歩したりホールで運動遊びをしたり、室内でも少し水に触れることができるように色水や氷、小麦粉粘土などの遊びを取り入れたりしたが、毎日の準備が大変であった。今後毎年この暑さが続くのであれば、どのように過ごしていけばよいのか課題が残った。（0～2歳）

《関わり》

- ・危険なこと（怪我に繋がりそうなこと）をしている子どもに対して、どこまで注意すればよいのか。また、どのように知らせることが一番効果的なのか。（0～2歳）
- ・個別での関わりが必要な子どもも複数名いるが、保育士の人数の関係もあり、十分に個別に関わるのが難しい状況である。（1・2歳）

《家庭との連携》

- ・嘔みつきなどのトラブルが多くある年齢であるが、どこまでどのように伝えればよいのか悩む。（0・1歳）
- ・トイレトレーニングや箸への移行など、家庭でも進めていただきたいが園に求めるばかりで家庭ではあまり進めていただけない家庭が多い。（2歳）

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

《環境》《保育内容》

・ 普段の保育でどのようなことをされているのか、他園でされている保育内容を学びたい。（特に夏の保育内容について）

《関わり》

・ 個別での関わりが必要な子どもに対してはどのように関わっているのか他園での状況を学びたい。（一人に一人保育士が付くことができているのか、付けていない場合はどのように対応されているのか等）

・ トラブルになりやすい子どもへの対応の仕方を学びたい。

・ 危険なことをしている子どもに対しての対応の仕方を学びたい。（どこまで知らせるのか、どの程度で注意をするのか等）

《計画や記録》

・ 他園の計画の様式や記録の書き方を知りたい。内容を充実させながら時短もできるようなやり方があれば学びたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

- ・ どの園も自然が近くにあるという点を生かして、自然に触れて遊ぶことができる保育を考えられていた。
- ・ 小規模な園では、3歳上での交流の時間も設けて、異年齢でも関わるることができるように工夫されていた。
- ・ 夏の保育内容についてはどの園も課題に感じたり、氷遊びや寒天遊び、魚釣りなど、室内でできる遊びを工夫して取り入れていた。また、手の平を冷やすことが大切という話も上がり、体は濡らせなくても手の平は濡らして遊ぶことができるように工夫するのもよいのではないかと話した。
- ・ 保護者の頑張りを感じることで、心の距離が縮み、園での子どもたちの様子も伝えやすくなる。
- ・ 記録や立案が簡素化されることで他に時間を費やすことができるなどのメリットもあるが、内容が薄くなってしまう5領域を考えなければ書くようにするなど工夫が必要。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・ コドモアプリを使用した積極的な家庭との連携
- ・ 3歳の行事に入れるところだけ3歳も参加させる。
- ・ 園で全クラスで遊び（興味のあること、今（この）ことなど）を伝える時間を設ける。
- ・ トイレにパーテーション等の設置（プライバシー配慮のため）
- ・ 保護者に何かを伝える時など、担任や担任と園長のみで相談して解決しようとするのも多いが、園全体で対応を考えていくことでより良い解決策が出てくることがあるという学びから、このやり方を取り入れていきたい。
- ・ 記録の記入や立案の際に5領域を考えながら記入をしていくということができるように、後輩にもこのことを伝えていきたい。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- ・ トラブル時やトイレトレーニングや箸への移行時の話を保護者にする際の伝え方が難しいという話もあり、伝えたいことはしっかりと伝えながら柔らかく伝える伝え方を学んでいきたいと感じた。
- ・ 実際に保育士役と保護者役が分かれてやり取りをしてみたことで、話しやすい話し方や、距離が縮まりやすい言葉などを知ることができたため、今後保護者とのやり取りの中に取り入れていきたい。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・実際に窒息時の対応やエピペンの使い方など、「や、さう」「経験しておく」ということの大切さに気付いた。
- ・給食のバリエーションと考える方があることを学んだ。自園にも、アレルギー児も食べられるおやつが全員に提供される日が時々設けられているため、そのような日を大切にしていきたい。
- ・現在の保護者の背景にも、そうやってしまう原因があるということも踏まえて支援をしていくことが大切であると学んだ。また、保護者と子どものためにも規範意識を大切にしていって接していくことが大切であるということも学んだ。
- ・偏食、少食、食べ遅れるのに時間がかかるという点は、保育中も気になっていた点であり、「お腹がすくリズム」がいかに大切か気付いた。家庭での生活リズムを大きく関係しているため、家庭の様子もとても大切であると学んだ。
- ・子どもの考える力を育てるためには、子どもの遊びを“見守る”ことが大切であると学んだ。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・手洗いの大切さや手洗いの仕方などは、丁寧に子どもにも伝えていきたい。
- ・他園のされている保育や使っている玩具（練習遊び、ビーンボンドなど）、保護者への対応の仕方（子どもの叱ることをたくさん伝えた上で、あと少しここを家庭でも頑張ってもらいたい、ということも伝えるなど）を知ることができたため、持ち帰って自園でも活用できるものを探していきたいと感じた。
- ・「お腹がすくリズム」をもつために、家庭での生活リズムを整えてもらえるように、なぜ生活リズムを整えることが大切なのか、食事とどう関係しているのかを保護者に知らせていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- ・はじめてお聞きすることができた。他園の話をお聞きすることができたり、実際に保育を見させていただいたりして、保育の幅が広がったように思う。今後も自分の保育を振り返り、子どもたちが早く必要となる経験をできるよう保育を充実させていきたいと感じた。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

〔環境〕

0歳児（11か月～）と同じ部屋で過ごしており広い乳児園庭やテラスなどがありのびのびと遊ぶことができる。部屋もとても広いのでマットやボールなどで体を動かすスペース、ポットン落としなどでじっくり遊ぶスペースなど空間を分けて色々な遊びを設定している。月齢差があり、0歳児は玩具を口に入れることもよくあるので玩具の大きさや素材に注意し、歩行が難しい子どもいるため安全面に配慮した環境作りをしたりしている。

〔保育内容〕

室内では、ままごと・糸車・手押し車・ポットン落とし、マット、ボールなど
 戸外では、砂場、すべり台、ボール、追いかけて、引き玩具などで女子手遊びを選んで遊ぶ。
 乳児園庭に桜の木があり、春は桜の花を見たり秋には落ち葉で遊んだりしている。
 気候が良い時期はテラスも活用し朝・夕方も部屋から出て遊んでいる。

〔関わり〕

育児担当制を用いており、担当の保育士が丁寧に生活面を見ていることで身につくようにしたり安心して過ごせたりできるようにしている。
 否定的な言葉かけをなるべくしないで、できたこと・元気になったことをしっかり認めたり、一歩者に遊びを楽しむことを意識している。
 子ども同士で関わろうとしているときは見守ったり、トラブルになりそうな時はすぐに仲介できるようにしたりしている。

〔家庭との連携〕

送迎時や連絡帳などで園での様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしてながら情報を共有している。
 毎月見日やスライド上映会で子どもの日々の様子を伝える機会を設けている。
 クラスページを年間（6月、9月、12月、3月）4回配布して園での様子を伝えている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

[環境]

- ・ 保育室がとてつもなく、子どもの重さきに通い歩くことが難しく、トラブルを避けられない時がある。また、玩具を手取り歩く子が多く、それぞれの遊び場が決められているから、子どもが片付けをする習慣が十分に身につかずにいる。
- ・ 高月齢の子に楽しめるような玩具を用意するが、低月齢の子が口に入れたり壊したりすることもあり、どのように環境を調整したらよいか。

[保育内容]

- ・ 1歳児は保育士1人につき5人という人数設定があるが、5人同時に生活面を見ていくのは難しい。戸外に出る時は、2人か3人ずつで、巾着を被ったり靴をはいたりして準備を見ていくが、保育士が手直しをしなければならぬ。十分に外遊びの時間が確保できているのかと考えることがある。
- ・ 遊びでは、一人ひとりしっかりと関わってほしいが、手が出せない子の近くに一人保育士がつかないといけない。他の子の要求に十分応えられない時がある。
- ・ 遊びを充実させてほしいが、午睡時は起きるのが早く、中々時間が作れない。

[関わり]

- ・ しゃべっている子がいると、その子に手を取られ、他の子が鼻水が出たり、糸状糸を飲んでしまったりしても、すぐに対応ができていない。
- ・ 言葉が出てくると子どもたち同士の関わりも増え、遊びを見守っていることもあつが、トラブルにたよることもあるので、見守ったり遊びに入ったりする加減を悩むことがある。

[計画や記録]

- ・ 個人指導計画を2歳にならないうちに毎月作成しているが、ねらいが同じような内容になってしまい、設定が難しい。
- ・ 週指導計画では、ねらいと日々の反省のみを記入する様式であり、子どもの姿を記入する量は少ない。子どもの姿を思い、手をかかるとねらいを設定するが、記入する場面があるとより分かりやすいのではなかと感じる。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

[環境]

- ・ 0,1歳児が一年生の部屋に過ごす場合、どのような玩具をどのように設定したら保育室の環境を構成しやすくなるのか
- ・ 色々な園を参考にし、一人ひとりが楽しめるような環境について考えてい
- ・ 動的・静的な玩具の両設置の仕方

[保育内容]

- ・ 戸外遊び・雨天の場合の遊びの内容
- ・ ホットクッキーなど手先を使ってじっくり遊べる遊びの準備
- ・ 保育室の壁を使って楽しめるような玩具
- ・ 子どもが喜んでする手遊び・あらば歌・角虫れ合ひ遊び

[関わり]

- ・ 育児担当制を用いている場合の1日の生活の流れや保育士の働き方（戸外へ出る時は何人ずつ連れだすか、その時の保育士の働き、排泄・手洗い・食事などの生活面を見る時のポイントや便ごとの働きなど）
- ・ 子ども同士の間での関わりが生まれるにはどうしたらよいか

[家庭との連携]

- ・ 早く迎えに来る保護者とは密に連携が取れるか、朝・夕と当番の時間帯に送迎に来る保護者とは話すことが少なくなってしまう。そのような保護者との連携の取り方。

[計画や記録]

- ・ 子どもの姿を書くとき、第三者が言っても分かりやすいように書き方のポイント。

4. グループワークを終えて (具体的にご記入ください)

グループテーマ: _____

【気付いた点・学んだ点】

- それぞれの国の特色 (音楽に力を入れている、IT化が進んでいるなど) を知ることで、
できたり、問題は息点について話し合うことで、同じような悩みを共有し、
解決方法を考えていくことができた。
- 園による書類の種類や様式、提出する頻度が変わることが驚きであった。
自園のやり方が当たり前だと感じていたのに、週書を2週に1回、個人指導
書画を3か月に1回など簡単にできる部分を知ることができた。
- また、月案に5領域の①・②など文章の始めに書いたり、友達のいる子の
手紙目かには☆マークをつけたりと、見やすく工夫することが大事だと感じた。
- 家庭との連絡やロールプレイをすることで、色々な声かけの工夫を知ることができた。
それぞれの保護者に合わせて、寄り添った声かけをすることが大切だと分かった。

【今後自園で取り組みたいこと】

- 子どもの安全面に配慮した玩具づくり
水道カバーなど玩具ではないものも、玩具に見立て作り、子どもが楽しめる
ような玩具環境を作っていくこと。
- 書類では、他園のやり方を自分の園に持ち帰り、色々な方法があることを
紹介して、自園でも取り組みめる方法を話し合ってきた。
月案に5領域を記入するなどで、自分で工夫できる部分ばかりいき、振り返り
しやすい書類を作成したい。
- 家庭との連絡の点では、他の園がされていたスマートフォンアプリなど
園全体で話し合ってから保護者に伝えたりすることをお願いしていきたい。
- グループワークで学んだことを同様、園長に伝えしていきたい。

【その他 (グループワークの感想等自由にご記入ください)】

- 最初は緊張していたが、最終日には緊張もなくなって、アットホームな
雰囲気の中グループワークをすることができた。それぞれの園のやり方や
方針は違っても、同じような悩みをかかえていたのに、それを共有したり
解決策を授けてくれたりしたことがよかった。グループワークをすることで
学びがより深いものになったと思う。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・普段の仕事では学べない、知見を多く得たり県内の色々な市町村、公立、私立の先生方と話しること、自分自身の視野も広がったように思う。
- ・協議では、実践を交えて行うことで、いざその場面に直面した時にも落ち着いて対応できるのではないかと思った。また栄養管理においても、離食の進め方や生活習慣の大切さを学ぶことができた。
- ・2日目の公開保育が大変詳しく保育を見せもらうことで、保育のやりかた、声かけの仕方など学んだ。午後のグループ討議等でも同じ年齢についての悩みやアドバイスなどが知れることができた。
- ・指導計画に関しては、色々な園のやり方を知ることが簡単にできること、力を人にあげたいやり方などを考えることができた。与えられた様式だけでなく、より良い方法を常に模索していきなさいと思った。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・まずは自園で、研修の内容や学んだこと、他園のやり方についてなど思ったことなどを共有したい。その上で自園でも取り組もうとしていることを考えていきたい。今回保育の様子をビデオで見ることが何回かあったが、ビデオで撮ることや保育士の重さを客観的に見ることができたので、自分自身の保育を振り返るきっかけになると思った。ビデオで撮ったものをクラスの職員で見え話し合うことで、より良い保育をやることにつながると思った。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- ・研修に参加させていただきありがとうございました。
- ・園だけでは学べない知見や発見があったり、自分自身の保育を振り返るきっかけにもなりました。改めて本来の保育の重要性を感じるとともに、誇りをもって保育をしていきたいと思いました。
- ・このような研修は中々ないので貴重だと大変ありがたかったです。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【保育環境について】

私は今年度から所属園に異動してきました。今年度担任している1、2歳児クラスは、元気の良い園児が多かったり、個別の対応や支援が必要な園児も多かったりする実態があります。4月当初は棚を置いていたらその裏側に入ろうとしたり、ままごとキッチンの上に登ろうとしてしまったりする姿が多く見られていました。どうしてもそのような時に、禁止の言葉が先に出てしまう現状があり、これでは良くないと考えたので、クラスの職員と話し合い、今現在も保育室の環境や遊びの工夫を行うことを意識しています。

その中でも、園児が好きな遊びや興味をもっていることなどの姿を捉え、何もなかった壁にホワイトボードを貼り付け、マグネット遊びや洗濯ばさみで洗濯ごっこができる指先遊びのコーナーを常設しました。また、センサーボトルやぽっとな落としなどの手作り玩具も用意しています。

動物や恐竜が好きな園児が多く、動物や恐竜のフィギュアで見立て遊びを楽しんだり、遊びを広げたりすることができるように、人工芝を使ってマットをつくりました。草の上に動物を並べたり、人工芝の感覚を楽しんだりしながら遊ぶ姿が見られています。

このように、園児の育ちに繋がるように、園児の実態やその時期の興味や関心に応じた環境を構成したり、再構成したりすることを意識しています。



指先遊びのコーナー



フィギュアで遊ぶことができる芝生マットを用いたコーナー

【園の特長と工夫について】

私の所属する園の3歳未満児クラスは、0歳児と1歳児低月齢児の混合クラス、1歳児高月齢児と2歳児の混合クラスの2クラスで構成されています。私は今年度、1歳児と2歳児の混合クラスを担当しています。0・1歳児クラスとも、保育室が繋がっており、一緒に生活することが多く、0歳児をかわいがったり、一緒に遊んだりしながら、異年齢での関わりを自然にもつことができています。ただ、1、2歳児の保育室が広すぎて、活動を分けることが難しい実態もあります。そのため、0・1歳児のクラスの職員とも連携しながら、それぞれの年齢で関わりながら遊ぶ時間を設けたり、時間をずらして遊戯室や保育室で遊んだりすることができるように、活動の工夫も意識しています。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- 私は今年度1、2歳児の混合クラスの担任ですが、年度当初は、同じクラスの園児がすべての時間を一緒に過ごしていく中での発達段階の大きさに悩むことが多かったです。排泄や食事、遊びなど、生活の流れが1歳児と2歳児では違う部分も多く、すべての園児の育ちを意識しながら、保育を進めていくことの難しさを感じています。特に今年度は1クラスが20人と人数も多く、トイレトレーニングなどをじっくりと行うことが難しかったり、同年齢での関わりの時間をもつことがなかなか難しかったりすることもあります。3歳未満児の異年齢児の複式クラスの保育の進め方をどうしていったらいいのか疑問に思います。
- 昨年度も異動前の園で1、2歳児の混合クラスを担当していましたが、今年度のクラスは、個別の関わりが必要な園児が多い傾向にあります。どうしても、個別にそれぞれの職員が対応していると、クラス全体を見る職員が少なくなってしまうという場面も多々あるため、対応の仕方について悩んでいます。
- 園児が主体的に遊ぶことができる活動や、遊びの環境づくりを意識したいと考えていますが、3上の保育室であれば、園児の興味や関心に応じて遊びの場を設けて置くことができますが、3歳未満児の遊びでは、こちらが選んだ玩具で遊ぶことが多くなってしまいます。保育室の中に、ままごとコーナーなどを常設したいと考えていますが、ままごとキッチンの上に登ってしまったり、次の活動に移る時にそちらが気になってしまったりすることが多いため、なかなか常設にすることが難しいと感じています。今年度は、興味に移りやすく、気持ちが高まると室内を走ったり、保育室を出ようとしたりする園児も多い実態もあるため、3歳未満児が主体的に遊べる環境づくりの工夫について教えていただけると嬉しいです。
- 3歳未満児は体温も高く、体調や周りの環境などによって、体温が上がりやすい傾向にあると思います。現在新型コロナウイルスによる規制も緩和されてはいますが、私の市の方針として、37.5度を超える場合には、解熱後24時間経過後か、病院を受診し、医師の判断によっては登園が可能となっています。そのため、37.5度を超えると、保護者に連絡をしていますが、家に帰るとなかったり、家ではとても元気だったりということもあるので、日々、園児一人一人の体調には留意することを心掛けていますが、園児の体調管理への気の配り方が難しいと感じることがあります。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

○課題2でも記述しましたが、3歳未満児の混合クラスでの保育の工夫や意識することについて知り、今後の保育に活かしていきたいです。

○3歳未満児の園児が主体的に遊びに関わって遊ぶことができるような工夫について学びたいです。（特に室内遊び）

○他園の保育の様子を見学させていただける機会はほとんどないため、保育所実習において貴重な体験をさせていただけることを嬉しく感じています。その園ならではの工夫や、先生方の保育、環境等の工夫、園児との関わり方などをしっかり学ばせていただき、自分の保育に活かしていけるようにしていきたいです。

○誤飲防止への工夫や乳幼児突然死症候群への予防のための午睡チェック表の記入などを行い、安全面に配慮していますが、乳幼児保育における安全への配慮について、改めて詳しく学びたいです。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

- ・各園での特色が様々あり、3歳未満児が経験できることが多くあることを改めて感じた。
- ・“ゆるやかな担当制”を導入することで、園児との信頼関係が築きやすくなったと感じた。
- ・個別の支援が必要な園児が増えている。加配の職員の必要性がある。（生活の部分を丁寧に関わってあげたり、遊びを充実できるのではないかと）
- ・配慮が必要な（身体的に）園児に対して、身体発達を高めるために家庭や療育で行っていることを園での普段の遊びに取り入れることで、その子の発達を促せるだけでなく、他の園児の身体を使った遊びにも乗がっているということ。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・ゆるやかな担当制を検討してみたい。家庭的な雰囲気がつくりやすくなると感じた。
- ・家庭や療育機関としっかり連携を取りながら、普段の保育にも繋げていきたい。
- ・書類に当てる時間を保育の質の向上に繋げるための様式の見直し（月週案1枚にすることで、見やすく、主担任以外の保育教諭も分かりやすく、連携がとりやすくなると感じた。）

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- ・他園の先生方と様々な話や情報交換ができて、非常に貴重な時間だった。4日間グループが同じなのも深く話ができてよかったと思う。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・自分の市以外の先生方と話し合い情報共有をしたりする機会はほとんどなく、非常に良い経験となった。
- ・グループワークでの先生方の園での取り組みや保育見学をさせていただいた園での取り組みなど、自園でもできることや参考にできることも多かった。
（環境構成や、食事の進め方、連携等について）
- ・今ある園の環境の中で、何が必要で、どんな工夫ができるのかを園内でしっかりと話し合っていくことの大切さを感じた。
- ・どの園でも保護者支援の難しさや悩みが似ていることを感じ、やはり前提となる信頼関係の構築の大切さを改めて考えることができた。
- ・子どもの窒息時の対応について、やり方は聞いていたが実践したことがなかったため、実際にどうしたらいいかを学ぶことができて良かった。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・ふれあい遊びやわらべ歌のレポトリーを増やしたいと思った。
4日目の議義でふれあい遊びを設定にする保育を見せていただき、非常に参考になたと感じる応答的な関わりの一つとして、明日からの保育に取り入れていきたいと思う。
- ・窒息時の対応について、園内及びクラスの先生たちとすぐに共有しようと思う。
食事の際、かなり気を付けてはいるが、詰め込もうとする子、嚥下が苦手な子など、実態が様々であるため、しっかりと安全管理に関する情報共有をしていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

3歳未満児の担任としての悩みや迷っていることなどを、他園の先生方と共有し、取り組みや立ちの具体例を知ることができたり、様々な工夫を知ることができたりして、非常に貴重な4日間だった。

「0歳児から積み上げる教育・保育」の重要性を知ることができ、3歳未満児保育について、改めて考えることができるきっかけとなった。

今回学んだことを日々の保育にしっかりと生かし、自分の保育教諭としての力を高めていきたいと思う。

令和6年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども/子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- ・玩具や絵本は、子どもたちの視線に合う高さで設置し、自由に選べるようにしている。
- ・クッション性のあるマットや手作り玩具を使用したり、危険な物は置かないようにしたり、探索活動を安心して行える環境を設備している。
- ・ロッカーやタオル掛けに個人マークシールを貼っており、視覚的に分かるようにしている。
- ・子どもたちの自主性を尊重し、自由時間やコーナー遊びを取り入れている。
- ・食事や排泄の時間など個別の対応を心がけ、無理のないように進めている。
- ・手作り玩具を使用し、指先の発達や創造性、感性を育む工夫を行っている。
- ・子ども一人一人の気持ちやコミュニケーションを大切にし、子どもたちが安心感をもてるようにスキンシップや笑顔を通じて信頼関係を築いている。
- ・連絡帳や送迎時のコミュニケーションを通じて、家庭と密に連携を図るようにし、保護者からの相談や意見に対応し、安心して子どもを預けてもらえるように努めている。
- ・給食は園独自の献立を作成し、季節に合った旬の食材を多く取り入れており、地産地消献立や誕生会などの行事には、特別メニューを提供している。
- ・個々に対応した離乳食、アレルギーの子どもには、除去食・代替品を調理している。
- ・お米は無農薬米を使用している。
- ・また英語があり、小さいときから外国の文化や英語に親しめるようにしている。
- ・言葉の発達に応じたコミュニケーションを促すように、簡単な言葉や絵本を交えて関わりをしている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

園の設計上、広いスペースが確保されていないため、部屋のレイアウトが難しい。
 子ども一人一人の発達段階や性格が異なり、その違いに応じた保育を行うのは難しいことがある。例えば、今私が受け持っている1歳児クラスでは、言葉の発達が早く、自分の感情や考えを言葉で表すことが出来る子や、まだ言葉がうまく話せず、身振りや表情で意思を伝えられる子もいる。また、歩き回ることが好きな子、一人が遊ぶことを好んでいる子、何にも入ってしまう子、自分の思い通りに行かないと手が出してしまう子など、様々な子どもがいるクラスなので、こういった違いに配慮し、職員同士で連携を図ったり、一人一人の特徴をとらえたりして日々の保育をするように心がけている。全ての子どもに適切な関わりをもつためには、一人一人の様子を観察し、その子に合った対応をする必要がある。しかし、全ての子どもが動きに目を配ることが難しく、どこかで怪我をしたり、トラブルになってしまったり、危険な状況に陥る可能性のある子どもを見逃してしまうことも考えられる。このように十分な注意を怠らなかつ、個別の発達や月齢に適切なサポートを行うことは難しい面もある。そのため、他園ではどのような対応、職員間の連携がされているのか疑問に思う。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

子どもたちがより自由に安心して過ごせる環境を作るためにどのような工夫をしているのか、また発達に合った遊びやどんな活動を取り入れているのか。

保育教諭として、子ども一人一人の個性や感情に寄り添いつながらより良い関係を築くにはどうするか。

園では管理栄養士と連携し、個々に対応した離乳食や除害食、食材の形状を相談したり、給食会議や給食表（除去表）で保育教諭と給食室との連携を図ったりしているが、他園ではどのような連携の仕方をしているのか。

保護者と効果的なコミュニケーションをとる方法や、日頃のやりとりをスムーズに行うためにはどうすればいいか。

以上のことを学び、これからの園生活に活かしていく。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ： _____

【気付いた点・学んだ点】

- ・ 自身で悩んでいることや疑問点も、他園の先生をも同じ思いをしていることが分かった。
- ・ 口には何が入りしやう子・手が出しやう子・禁止が分からないう子が多い。
- ・ 書類をデジタル化していく。デジタル化からこゝ難しいことがある（書類を作成する時、端末が一台しかないので、使い方が分からないなど）。
- ・ どの園も子どもを大切に保育を大切にしていることが分かった。
- ・ どの先生も、子どもを主体として保育・活動を大切にしている。勉強になった。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・ 様々な手作り玩具を作る。活動の中に取り入れていく。
- ・ 保育のまじりかや援助の仕方を真似していきたい。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- ・ 保育教諭ならいさよの悩みや疑問点が話し合えたのが、よかったと思う。
- ・ 他園の取り組みや保育の仕方など様々なことと学ぶ、きっかけとなった。
- ・ 自分の考えを言葉にして伝えることや、他者との協力の仕方など個人としての成長にも繋がる良い経験が出来た。特に、自分の課題点や改善点も明確になり、今後の取り組みに活かせると感じた。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・他園の保育の仕事や取り組みが違っ、勉強になった。
- ・保育に正解はないということを改めて感じる事ができた。
- ・職員間の連携・保護者対応など難しい面があるが、子どもを主体的に見守ることが大切だと分かった。
- ・ふれあいあそびの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・グループワークがあること、いろんな視点から話を聞くことができた。よかった。
- ・実際に人形を使い、首飾り打込やエビハシの使用、グロウライトを使い、手がきれいに洗えているかなど、体験ができた。もしもの時に落ち着いて対応できるようにしていきたい。

【今後自園で取り組みたいこと】

- ・自分たちが保育している姿をビデオ撮影し、見返して次の保育にどのように繋げていくかを考えたい。
- ・園内でもグループワークをしながら、保育の質を高めたい。
- ・ふれあいあそびや簡単な集団遊びを取り入れていきたい。
- ・救急処置の仕事や、離乳食への支援など、職員だけでなく保護者の方にも伝えたい。
- ・子どもや保護者に肯定的に話できるようにしていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- ・今年のがかりアワードがコロナということもあり、パソコンで受ける形式をしていたが、やはり実際に生で講義を聞いた。
- ・他園の先生方と情報交換もできた。このような研修は、とても意義のある時間となった。